

千葉農業事務所

普及だより

URL <https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-chiba/>

【第158号】 2024年12月1日

発行：千葉農業事務所改良普及課
千葉地域農林業振興普及協議会
千葉市緑区大金沢町473-2
(千葉農業事務所 分行舎)

TEL043(300)0950
FAX043(293)2710

令和5年度千葉県農業士 新規認証者の紹介

令和5年度は、千葉地域から農業士2名が知事から認証されました。農業士は、地域農業の担い手のリーダーとして農業青年の相談相手となり、共に地域を盛り上げる役割が期待されます。

織戸 淳也氏(習志野市)



習志野市で施設野菜と露地野菜を栽培しています。夏はトマト・ズッキーニ・えだまめ・とうもろこしを、秋は落花生・ほうれんそう・こまつなを、冬から春はカリフラワー・ブロッコ

リー・キャベツなどを栽培しています。年間を通して収入が得られるよう消費動向を把握し品揃えしています。

牧野 大地氏(市原市)



市原市で酪農を営んでいます。性別別精液の利用や乳牛のゲノム解析に取り組み、将来の乳量や乳成分、繁殖成績を予測するシステムを導入しています。また、「市原市ホルスタイン改良同志会」に所属し、牛群の育種改良にも力を入れていきます。お二人の一層の御活躍を期待します。

環境にやさしい農業に取り 組んで「みどり認定」を受 けてみませんか？

「みどり認定」とは、令和4年7月に施行された「みどりの食料システム法」に基づき、「環境負荷低減」を図るための事業活動に取り組む「計画」を認定する制度です。

【対象となる取組例】

①土づくり、化学肥料・化学農薬の使用低減の一体的な取組（ちばエコ農業や有機農業、エコファーマー等の取組）、②温室効果ガスの排出量の削減（水田の秋耕、施設栽培でのヒートポンプ等の省エネ機器の導入等）、③その他（バイオ炭の農地への施用、生分解性マルチの使用等）。

【認定を受けるメリット】

①国が指定する化学肥料・化学農薬の使用低減に必要な設備を導入した場合に所得税・

新規参入者の力で農業を盛り上げよう 千葉地域新規参入者研修会を開催しました



こまつな栽培ほ場での意見交換



自身の課題について発言する新規参入者



管内では新たに農業に参入する人が毎年20名と、令和元年から増加傾向にあります。産地の高齢化が加速する中、より多くの担い手を育成することは地域農業の維持発展のために必要です。

令和6年7月8日に、新規参入者が直面する課題である、農地の確保や営農技術の習得、地域との繋がり方などの解決に向け、千葉地域新規参入者研修会を開催しました。こまつなを中心に栽培し、就農14年目になる経営者を講師に迎え、就農時の苦労や経営発展に向けた取組み等の経験について講演を行いました。その後、ほ場を視察し、栽培の工夫、雇用導入のタイミングや販路開拓など、経営の発展段階により推移する課題を解決してきた方法について参加者と意見交換しました。

農業事務所では、今後も関係機関と連携し、新規参入者の経営発展と地域での定着を目指していきます。

法人税に対する優遇措置（ただし、計画認定前の設備取得は優遇対象外となるため注意）、②一部の国庫補助金における採択の優遇措置、③日本政策金融公庫の無利子融資の貸付け。

【申請方法】

企画振興課宛てに申請書を御提出下さい（今年度中の認定を希望される場合は、令和7年2月28日まで）。申請書は県のHPから入手でき、記入例も掲載しています（「千葉県 みどりの食料システム法」と検索）。また、エコファーマーの活動に取り組み場合は、「土壌診断結果」が必要です。

御不明点がありましたら、企画振興課まで御連絡ください。
(043-300-1985)



県HPはこちら

地域農業の発展に貢献する
～市原市安藤哲也さん～

安藤哲也さんは市原市郡本で100品種以上の野菜苗を中心に、ねぎやブロッコリー、こまつな等を栽培しています。平成19年に千葉県農業士に認証され、若手農業者の技術向上に力を入れるなど、地域農業の発展に尽力されています。

【雇用を活用した経営拡大】

就農3年目に雇用を導入し、苗生産の繁忙期に人手を確保しました。これを契機に、周年雇用を維持するため、苗生産以外の時期にも野菜生産に取り組み、経営規模が拡大しました。今では直売所やホームセンター、個人農家、農協に野菜苗を出荷するほか、スーパー及び学校給食に野菜を出荷しています。



【地域とのつながりを大切に】

野菜苗販売で培った農家同士の繋がりを生かし、ブロッコリー生産者を対象とした勉強会を関係機関と連携して開催し、地域全体の栽培技術の向上に取り組んでいます。

【今後について】

安藤さんは、「苗販売後、本ほでの野菜栽培がうまくいってほしい。そのためには栽培技術の向上に向けた情報発信が重要。」と話されます。今年度はブロッコリーの栽培モニターを市内の農家から募り、生育調査と相互巡回を行い、情報発信することを計画しています。



育苗ハウスで語る安藤哲也さん

集落の中心的な担い手として
～千葉市石井一也さん～

石井一也さんは千葉市緑区で水稲、露地野菜、果樹等を栽培しています。千葉県立農業大学校卒業後、17代続く農家の後継者として、22歳で就農し、令和3年に千葉県農業士に認証されました。

【経営の安定化を目指して】

水稲の耕作者が減少する中で、集落のライスセンター運営の構成員となり、農業機械の操作を担当しています。露地野菜やブルーベリー、さつまいも苗等、複数の品目を栽培し、リスク分散をしながら経営の安定化を図っています。

【今後について】

「自分が就農した時には周囲の農家に助けていただいた。これからは、自分が新規就農者を支援し、地域農業を支えたい。」と活躍中です。



将来は観光農園に取り組みたいと語る石井一也さん

【地域のネットワーク】

農業経営体育成セミナーを修了した若手農業者で設立した「温Line」や、農業委員としての活動を通して、地域の農家と幅広いネットワークを作り、経営に生かしています。また、新規就農者の相談対応や助言をしたり、機械作業を一緒に行う等、地域の担い手育成にも積極的に取り組んでいます。

梨の切り枝加温による
花粉採取技術の課題と改善策

開花時期より前に切り枝を育苗器で加温することで梨の花粉を確保する技術について、市原市で実証を行いました。十分な量の花粉を採取することはできませんでしたが、実証試験で分かったことを紹介します。

【光が必要】

育苗器で加温すると、暗条件が続きます。この条件で加温して生育させると、花、葉が着色せず貧弱なものとなりました。光源を用意する、光が当たる場所で加温するといった対策が必要であることが分かりました。



育苗器で開花させた花

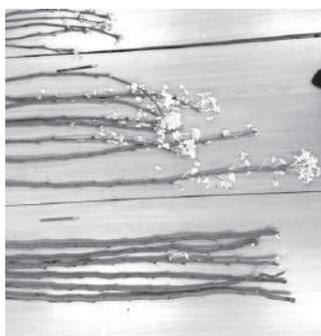
【鮮度保持剤が必須】

長期間育苗器に入れておくこと2〜3日程度で水が腐ります。水の交換での対応も試みましたが、水質悪化は防げませんでした。切り花用の鮮度保持剤が必須となります。

【枝のまとめ方】

枝の太さによって開花時期が変わります。太い枝は開花が遅く、細い枝は先端しか開花しないため、中庸な枝を中心に採取し、同程度の枝をひとまとめとして加温することが開花を揃えるために重要です。

上記に加え、低温の遭遇時間や樹齢、樹勢の影響で開花程度が異なることに注意が必要です。



同時間加温後の枝の太さ別開花状況

施設園芸の高温対策

施設園芸での高温対策では、「換気」、「遮光」、「冷却」の3つの項目が重要です。単独ではなく、導入可能な対策を複数組み合わせ、効率的にハウス内気温を低下させましょう。

【換気】

暖かい空気はハウス上部に溜まりやすいため、側窓換気より高い部分で高温障害が起きやすいです。そのため、肩換気や天窓換気が効果的です。また、循環扇を利用することで、ハウス内の熱を外へ排出することができます。循環扇を設置する際は、性能に応じた台数の設置や位置が大切です。

【遮光】

遮光ネットがよく導入されていますが、ネット資材以外にもハウスの屋根に直接塗る塗布剤もあります。遮光率が高いと光の透過率

が低くなり、気温上昇は抑えられますが、光合成に必要な光がハウス内に入らず、徒長や生育不良の原因になるので注意してください。

【冷却】

ハウス内を冷却するには、冷房と暖房の両方の機能を持つヒートポンプ、水の気化熱を利用してハウス内温度を下げる細霧冷房や、パット&ファンがあります。気化熱は、乾燥した空気で気温を下げる効果が大きく、湿度が高くて気温の高い日は効果が小さくなります。また、湿度が上がるため、病害に注意が必要です。導入には経費がかかるため、それぞれの特徴を理解して導入を検討する必要があります。

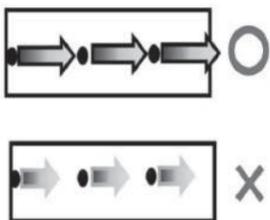


図1 循環扇の設置
 良い例・悪い例
 (出典 農業いばらき)
 風が次のファン、ハウス外に届いていない